

切 花 ・ 鉢 花 の 1 0 月 の 見 通 し

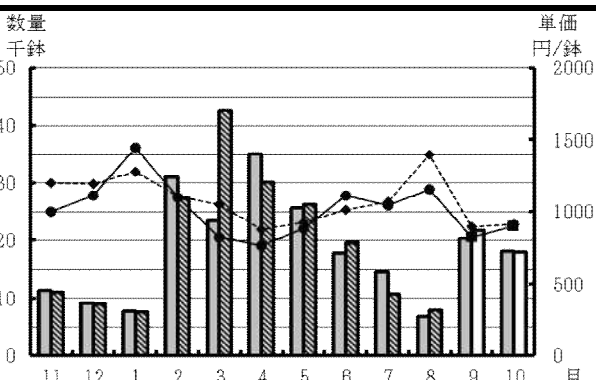
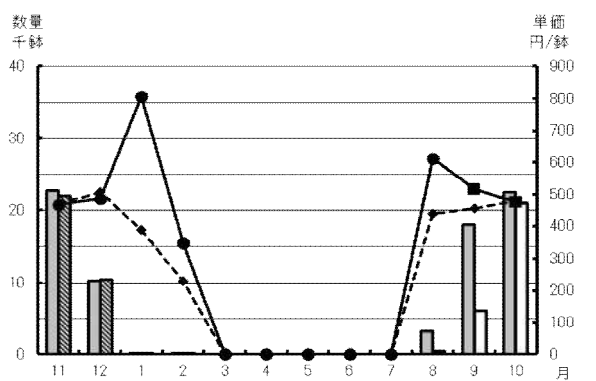
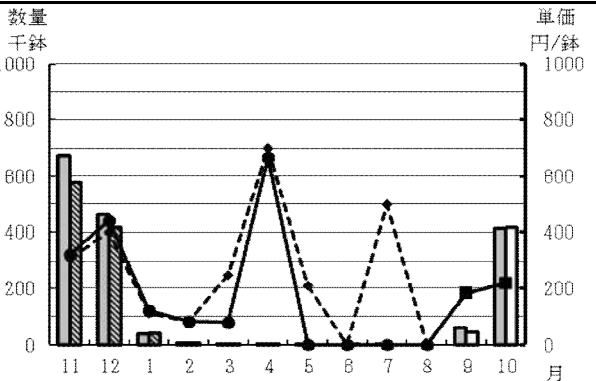
切 花（愛知名港花き地方卸売市場 10月1日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		実績等	入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
輪 ぎ く	実績	2020年		1, 2 3 0	5 0	
		2021年		1, 2 5 0	5 5	
		2022年		9 9 4	6 6	
		2023年		1, 0 2 5	7 1	
		2024年		9 4 2	6 8	
	5ヵ年平均			1, 0 8 8	6 1	
	2025年見通し			1, 0 0 0	6 5	
概要	愛知、長野を中心に入荷。長野産は中旬頃には出荷も終了し、愛知産も出荷量は多くないが、中旬以降少しづつ増えてくる見込み。一般需要は少ない時期だけに、葬儀需要の動きで相場は変動しやすい見込み。					
小 ぎ く	実績	2020年		6 2 1	3 8	
		2021年		6 3 0	3 8	
		2022年		6 4 8	4 8	
		2023年		5 3 2	4 2	
		2024年		4 3 7	3 5	
	5ヵ年平均			5 7 4	4 0	
	2025年見通し			4 5 0	3 5	
概要	愛知、長野を中心に入荷。7月からの暑さ、干ばつの影響もあり、品質面、入荷量ともに不安定。中旬以降少しづつ品質は回復してくるが、入荷量自体は月を通して少ない見込み。					
カー ネー シ ョ ン	実績	2020年		9 3 8	4 6	
		2021年		1, 1 0 0	4 5	
		2022年		9 9 4	5 4	
		2023年		9 3 8	6 0	
		2024年		1, 0 4 9	4 3	
	5ヵ年平均			1, 0 0 4	4 9	
	2025年見通し			1, 0 0 0	4 0	
概要	長野、愛知、輸入を中心に入荷。長野産は終盤に近付き、愛知産はスタートは早い が、例年に比べバラバラと出荷が続く見込み。 輸入品はハロウィン需要に引っ張られるのと便の不順等で入荷は不安定。					
か す み そ う	実績	2020年		1 0 2	1 3 3	
		2021年		9 0	1 4 0	
		2022年		1 0 3	1 7 0	
		2023年		8 6	1 9 1	
		2024年		1 3 1	1 2 6	
	5ヵ年平均			1 0 2	1 5 0	
	2025年見通し			1 1 0	1 3 0	
概要	福島、長野、熊本からの入荷。気温の低下に伴い、高冷地産は減少するが、中下旬から和歌山産、高知産の出荷も始まる。					

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き			
	実績等							
ゆり	実績	2020年	2 5 6	1 8 2		単価 円/本		
		2021年	2 8 0	1 7 5				
		2022年	2 1 3	2 0 9				
		2023年	2 2 7	2 2 5				
		2024年	2 0 6	1 9 9				
	5 カ年平均		2 3 6	1 9 6				
	2025年見通し		2 2 0	2 0 0				
概要	オリエンタルユリは新潟、埼玉、岐阜、愛知、高知、宮崎、北海道からの入荷で中下旬から西南暖地の出荷もまとまってくる見込み。LA、鉄砲ユリは中旬以降西南暖地産が増えてくる。							
洋らん	実績	2020年	2 9 8	1 0 0				単価 円/本
		2021年	3 5 0	8 0				
		2022年	2 9 2	1 2 3				
		2023年	3 5 9	1 1 5				
		2024年	3 0 0	1 0 9				
	5 カ年平均		3 2 0	1 0 5				
	2025年見通し		3 0 0	1 1 0				
概要	愛知、静岡、鹿児島、輸入が入荷する。コチョウランは中旬頃から入荷増え、カトレアも増加となる見込み。デンファレも増加傾向で特にアンナが増えてくる。オンシジウムは下位等級中心に増加する。シンピジウムはニュージーランド産が終盤となる。							
ばら	実績	2020年	6 6 2	8 0		単価 円/本		
		2021年	6 8 0	8 0				
		2022年	7 1 6	9 8				
		2023年	6 9 8	9 4				
		2024年	6 7 8	8 7				
	5 カ年平均		6 8 7	8 8				
	2025年見通し		6 8 0	8 8				
概要	愛知、岐阜、三重、山形、輸入が入荷する。夏の暑さのダメージが否めないが、中旬以降上位等級も出てくる。需要は秋のブライダルの色目になり、ハロウィン色などに引き合いが出てくる見込み。品種にもよるが、全体の入荷は例年並みが予想される。							
枝もの	実績	2020年	1, 1 9 8	5 6				単価 円/本
		2021年	1, 2 0 0	5 5				
		2022年	1, 2 9 0	6 4				
		2023年	1, 2 6 5	6 3				
		2024年	1, 2 2 7	7 4				
	5 カ年平均		1, 2 3 6	6 2				
	2025年見通し		1, 2 0 0	7 0				
概要	紅葉シーズンに突入し、赤やオレンジ系の引き合いが強くなる。花木類はサンゴ水木、紅葉ヒペリカム、油ドウダンなどが始まり、草花類、女郎花、ミシマサイコ、ワレモコウなどは徐々に終了していく。高温、干ばつの影響は秋出し物にはあまりないが、冬出し物に影響が出る可能性もある。							

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き	
	実績等					
ドラセナ類	実績	2020年	25,191	764		単価 円/鉢 2000
		2021年	18,028	1,123		
		2022年	20,223	1,069		
		2023年	19,023	905		
		2024年	18,175	912		
	5ヵ年平均		20,128	943		
	2025年見通し		18,000	900		
概要	入荷量は前年より減少か。種苗会社からの苗の供給があり出荷は前年より増えると思ったが、7号以上の海外原木での輸入減少が要因。 また、7号以上の入荷減予想の為、平均単価も減少の見込み。品目では、ユッカ・マッサンが主でコンシンネが多少増えてくる可能性の見込み。 前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（57.3%）、2位鹿児島（12.4%）、3位三重（10.0%）であった。					
シヤコバサボテン	実績	2020年	34,322	437		単価 円/鉢 900
		2021年	32,956	449		
		2022年	30,773	485		
		2023年	25,679	448		
		2024年	22,511	478		
	5ヵ年平均		29,248	458		
	2025年見通し		21,000	476		
概要	入荷量は前年より減少か。猛暑の影響で出荷のスタートが10月からになる物が増えそうな状況。年々生産には過酷な気象状況となっている為、良質の商品については引き合いが強めになる見込み。 前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（56.6%）、2位埼玉（43.3%）、3位栃木（0.1%）であった。					
シクラメン	実績	2020年	549,026	186		単価 円/鉢 1000
		2021年	542,283	187		
		2022年	614,502	209		
		2023年	496,173	212		
		2024年	413,021	215		
	5ヵ年平均		523,001	201		
	2025年見通し		418,500	218		
概要	入荷量は前年並か。10月上旬までは3号ガーデンシクラメン主体の入荷となるが、中旬から下旬にかけて4号・5号の入荷が徐々に増え始める。残暑の影響で例年よりも出荷遅れがやや懸念されるが、相場は例年よりも比較的安定する見込み。 前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（31.2%）、2位長野（13.9%）、3位群馬（11.6%）であった。					

単位：鉢、円／鉢

品目	区分 実績等	入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
シンビジュウム	実績	2020年	2, 2 2 5	数量 千鉢 単価 円/鉢
		2021年	4, 9 6 8	
		2022年	3, 2 7 5	
		2023年	2, 6 7 1	
		2024年	1, 9 3 3	
	5ヵ年平均	3, 0 1 4	1, 5 5 9	
	2025年見通し	1, 5 0 0	1, 6 0 0	
	概要	入荷量は前年より大幅減少か。廃業や減産、転作に伴い生産量は減る見込み。 夏の高温の為、花飛び等の傷みが前年も出ており、残暑の影響を受ける10月は今年もかなり少ない見込み。 前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（59.4%）、2位三重（19.6%）、3位徳島（6.8%）であった。		
カラコエ	実績	2020年	2 6, 3 2 0	数量 千鉢 単価 円/鉢
		2021年	2 7, 9 5 0	
		2022年	2 6, 2 1 9	
		2023年	2 1, 0 4 2	
		2024年	1 7, 9 2 4	
	5ヵ年平均	2 3, 8 9 1	2 4 1	
	2025年見通し	1 7, 0 0 0	2 6 5	
	概要	入荷量は前年よりやや減少か。生産状況は暑さの影響もあり良品が減少傾向（ロス増加）。それに比例し市場も入荷減となる可能性。花鉢・ポット物どちらも八重が比較的高値となる。先月に続き、山上げ商品も始まり産地、荷主は移動しつつも出荷が切れることは少ない見込み。 前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位埼玉（60.8%）、2位岐阜（28.7%）、3位愛知（6.2%）であった。		
パンジー	実績	2020年	5 1 4, 6 4 0	数量 千鉢 単価 円/鉢
		2021年	5 8 7, 2 7 8	
		2022年	5 2 0, 5 7 0	
		2023年	4 1 0, 0 3 9	
		2024年	4 0 7, 8 1 0	
	5ヵ年平均	4 8 8, 0 6 7	6 0	
	2025年見通し	4 0 0, 0 0 0	6 6	
	概要	入荷数量としては前年並かわずかに減少か。例年お盆明け以降も暑さが続き痛みが出やすいのと、暑さで需要がずれてきているのもあり播種を意図的に遅らせている傾向。下旬頃にならないと花付き商品は増えてこない見込み。 前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（23.8%）、2位埼玉（15.3%）、3位奈良（14.0%）であった。		